

平成28年度

事務事業評価表 A (平成27年度 の実績評価)

記入年月日
平成 28 年 4 月 1 日

Do] 1. 事務事業の現状把握（その1）

(1) 事務事業の概要

	<p>①事務事業の概要（事務事業の全体像）</p> <p>環境美化の推進を図るとともに、資源の有効利用の促進等の対応に努め、環境保全に対する意識の高揚を図ることをねらいとして、茨城県、関東甲信越静環境美化推進連絡協議会が主催する、環境美化活動。</p> <p>5月30日（ごみゼロ）にあわせて行う、地域市民参加による市内一斉清掃活動。行政区ごとに集められたごみを回収し、分別後処分。リサイクルできるものは、売却処分する。</p>	<p>②担当者が行う業務の内容・やり方・手順</p> <p>空き缶等の散乱防止を呼びかけるとともに、市内120行政区に対し、清掃活動の実施依頼をする。実施後、委託業者による、各集積所からのごみの回収作業。集められたごみは分別し、処分。行政区からの実施報告書の取りまとめ作業。実施状況に基づいた、各行政区への報償金の支払い事務。</p>
--	--	---

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段（担当者の活動内容）	④活動指標（活動量を表す指標）	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (計画)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
市内全域での一斉清掃活動実施の際、区長を通じて回覧で周知。	参加行政区	区	115.00	114.00	115.00	120.00	120.00
	回数	回	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象（誰、何を対象にしているのか）	⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (計画)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
市民	市民	人	43,190.00	42,444.00	42,048.00	41,652.00	41,256.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図（この事業によって対象をどう変えるのか）	⑥成果指標（対象における意図の達成度を表す指標）	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (計画)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
市内一斉清掃活動をとおし、ごみを捨てない意識づくりを行う。ごみの散乱のない、清潔で快適な生活環境の創造について啓発する。	参加人数	人	8,173.00	7,865.00	9,000.00	9,000.00	9,000.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(c) 投入量(支拂費)の推移

(3) 投入量(事業費)の推移		△年度		△年度		△年度		△年度		△年度 総投入量
		(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
投 入 量	事業費 財 源 内 訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0	0	0
		使用料・手数料	千円	0	0	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	1,097	1,030	1,052	1,052	1,052	1,052	0
	人 件 費	事業費計(A)	千円	1,097	1,030	1,052	1,052	1,052	1,052	0
		正規職員従事人数	人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0
	人 件 費	述べ業務時間	時間	43.00	55.00	55.00	55.00	55.00	55.00	0
		人件費計(B)	千円	125	160	160	160	160	160	0
		トータルコスト(A+B)	千円	1,222	1,190	1,212	1,212	1,212	1,212	0

(B) 1月 27年度事業費実績(千円)

事業費の内訳	27年度事業費実績(115)		28年度事業費予算(115)	
	08 報償費	857	08 報償費	879
	13 委託料	173	13 委託料	173
	合計	1,030	合計	1,052

(4) 当該年度の実施内容

※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する <ul style="list-style-type: none"> ・主要事業 ・市長マニフェスト ・未来PJ事業 ・合併建設計画事業 		
--	--	--

事務事業名	環境美化運動事業	事務事業No.	41102000230	所属課	環境対策課
【Do】 1. 事務事業の現状把握（その2）					
(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？ 「自分たちの街を自分たちの手できれいに」をスローガンに、「関東地方環境美化の日」（5月30日：ごみゼロの日）の事業として昭和57年から開始された。関東甲信越静環境美化推進連絡協議会は、東京・茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・山梨・静岡・長野の10都県並びに新潟県の清掃担当課で構成される団体。					
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？ 「普段から清掃活動しているので、特別には実施しない」という行政区もあった。					
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的な内容					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目

評価項目	
①政策体系との整合性	(この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)
目的妥当性 結びついている	自ら地域を清掃することにより、地域への愛着や美化に対する意識が増し地域のつながりが強くなる。
②公共関与の妥当性	(なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)
妥当である	地域で収集したごみを、市が回収する。行政区へ報償金を支払い、清掃活動の運営費用に役立ててもらう。
③成果の向上余地	(成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないか？)
向上余地がある	一斉清掃活動日に実施していない行政区については、随時地区内の清掃活動に取り組んでいるので、改めて行わない旨の回答があった。統一美化活動の趣旨を理解していただき、賛同してもらえるように働きかけていきたい
④廃止・休止の成果への影響	(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)
影響有	環境保全・環境美化の意識向上に繋がらない。
⑤類似事業との統廃合・連携の可能性	(類似事業や統廃合の可能性がありますか？(市以外の取り組みも含む))
(他に手段がある場合)➡	具体的な手段、事務事業名
余地がない	関東を含め11都県で一斉に行っている事業であるため。
⑥事業費・人件費の削除余地	(成果を下げずに事業費を削除できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)
削減余地がない	必要最小限の経費、業務時間である。
⑦受益機会・費用負担の適正化余地	(事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)
公正・公平である	市内全域を対象としている事業のため。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括（振り返り、反省点）
①目的妥当性 ■ 適切 □ 見直し余地あり ②有効性 □ 適切 ■ 見直し余地あり ③効率性 ■ 適切 □ 見直し余地あり ④公平性 ■ 適切 □ 見直し余地あり	➡ 桜川市世帯数からみた、環境美化活動への参加割合は約半数であった。参加していない世代から参加してもらえばより一層の意識向上に繋がる。
(3) 今後の事業の方向性	(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)
□ 終了 ■ 繼続 → □ 改革改善を行う → (複数回答可) □ 廃止 □ 休止 → ■ 現状維持 (□ 目的の再設定 □ 効率性の改善 □ 有効性の改善 □ 公平性の改善 □ 統廃合ができる □ 連携ができる)	成果 コスト ↑ 削減 ↓ 維持 ↓ 低下
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 商店街が立ち並ぶ地域等、地区によって普段から地区の美化を個々に行っている地区へも一斉活動の趣旨を理解してもらうとともに、参加を働きかける。	(6) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 (2) コスト削減優先度評価結果 (4)

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 B A：継続（現状維持） C：終了、廃止、休止 B：継続（改革改善を行う） D：2次評価へ提出	確認欄